

# 赤坂に生まれた「明地」



(明暦) 江戸大絵図(部分) 赤坂・溜池周辺 公益財団法人三井文庫所蔵

赤坂・溜池周辺を切り取った図です。図の右上にみえる「山王」は日枝神社のこと。溜池の西側には町地・大名屋敷・旗本屋敷、寺院が連なるエリアもありますが、白地にやや薄い色の墨で「明地」と書かれたスペースが広がっていることがわかります。実はこれ、文献史料では「赤坂築地」と表現された土地で、低湿地を埋め立てて武家屋敷の不足に備えるための造成地でした。過渡的に「明地」となっていたのです。

この空間は、寛永末年の(江戸全図)では、田圃のような記号が記されていた一帯です。築地というと中央区の築地が思い浮かびますが、海手の埋立だけでなく、赤坂や小日向など陸地の低湿地を埋め立てた造成地も一般に築地と称されました。明暦大火後、このような低湿地の開発が進められ、武家地の転入を待つ状態が出現していたのです。